

地域探検のポイント

みなさんの学校の校区には、どんな店や施設がありますか。子どもは毎日の登下校で様々なものを見ながら歩いていますが、実は意識していないことが多いのです。

まずは、教師が校区を探索していろいろなものを発見しましょう。「おや?」「なぜ?」と思えることを見付けながら、子どもたちとの町探検の計画を立てていきましょう。

ここが
ポイント

探検で何を学ばせたいか!?

校外で学習する町探検は、子どもにとって、とても魅力的な学習になります。しかし、はっきりとした目的がないと学びにつながりません。探検に行った場所に繰り返し行くことができ、そこで働く人や地域の人との関わりがもてると良いでしょう。そして、地域の人に親しみや愛着がわくと更によいですね。

地域が大好きになるために、子どものお気に入りの場所へ探検に行くことができるよう事前準備を進めていきましょう。

ここが
ポイント

事前の依頼は直接行こう!

毎年継続して探検を行っている場所だとしても、依頼は直接会いにいくことがよいでしょう。探検の意図や子どもにどのように関わってほしいのかが相手によく伝わりますし、何よりも教師の印象や熱意が伝わります。

また、学校全体で取り組んでいることを伝えることも大切ですから、学校長名で依頼文書を作成して、お届けしましょう。

あるある NG!

魅力的な見学先には、たくさんの子どもたちに探検してほしい！と思うのが当然ですが、チョット待った！

○見学先の場所の広さは子どもの人数に合っていますか？

○探検に行く時間帯に、その見学先にはどのくらいの人がいますか？

○見学先によっては忙しい時間となり、子どもには対応できない場合がありますか？

事前に確認しておきましょう！

Active

主体的な活動にするために、「子どもだけの探検」ができるようにしましょう。教師が子どもの近くに寄り添ってばかりでは、子ども自身が探検中に表現する機会を失ったり、自ら考えることで育つ芽を摘み取ったりします。そうかと言って、すべて子ども任せにするのも安全面で心配です。

そこで、保護者の方に協力を求めましょう。その場所に行くまでの危険な箇所を見守っていただくことで安心して探検できます。また、探検している様子をビデオや写真で撮影してもらうことで、探検活動後の振り返りに活用できます。さらに、子どもの様子を見ていて、よさやがんばりなどを保護者の方に聞いておき、後から教室で伝えることで自己有用感をもつ子どもに育っていきます。

気付き！

気付きの質を高めるために写真や校区のマップを活用しましょう。学級に大きなマップを作成し、少しずつ探検で得た情報を書き込んだり、写真を貼ったりします。そうすることで、「今度は、違うお店で聞いてみたいな。」「この場所には、どんな人がいるのかな。」「違う人でも同じことをお話ししていたよ。」など、地域に対する関心が高まり、探検に対する意欲が増していきます。